

I 序 章

——自然科学・哲学・神学における最近の傾向——

- (1) 実在論の復活……………一
- (2) 自然科学と方法論……………五
- (3) 神学と方法論……………八
- (4) より広い枠組の立場から……………九

II 観測と認識

- (1) 従来 of 考え……………一三
 - i 古典物理学……………一四
 - ii 相対性理論……………一九
 - iii 量子論……………二七

	(2) MNA理論	三〇
	(3) 一般論	三〇
	(4) 認識論の問題	三〇
III 論理と実在		
	(1) 従来 of 考え	三五
	i 形式論理	三五
	ii 集合論と数学基礎論	三七
	iii 論理と存在	三六
	(2) 拡張の必要性	三六
	i 現代物理学における問題	三六
	ii 日常的な問題	三七
	iii 非西欧的思考の問題	三七
	(3) ファジー論理	三八

IV 時空と存在 一〇一

(1) 従来の考え 一〇一

i 空 間 一〇一

ii 時 間 一〇七

(2) 拡張の必要性 一一四

(3) 永在性(aevity)とアイオニティ(aionity) 一二六

V 世界像 一三九

(1) 本書の考えのまとめ 一三九

(2) メタ哲学 一四七

(3) 今後の問題 一四九

(4) 追 記 一五二

付 録 一五三

索引

付録 A	物理学における可逆性と非可逆性について(抄)	一五〇
付録 B	悠久と時について	一六六
付録 C	物理学的世界像の問題	一六九
付録 D	十字架の聖ヨハネ著「霊の賛歌」第三十八の歌	一七〇